

休業中のオンラインを利用した学習（ロイロノート）

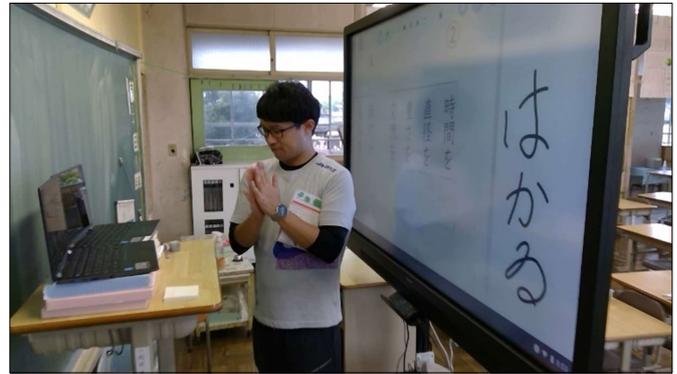
ア 活動の概要

令和3年度9月の、2週間の休業期間中においても、学びを止めないようにするために Meet 等を活用してオンラインを利用した学習を行った。

イ 準備物

a 電子黒板

デジタル教科書や黒板の代わりに電子黒板を用いた。児童数が Meet の接続可能人数内であれば、「端末上でデジタル教科書を起動し、画面共有をかける」ことで対応ができるが、後述の通り2台のタブレットを用いる必要があったためこのような手法を用いた。



【オンライン授業の様子】

b 端末2台

学年児童の人数が Meet の同時接続人数(100名)を超えてしまうため、教師の前に端末を2台置き、一方を1、2組、もう一方を3、4組用として活用した



【オンライン授業時のタブレットの置き方】

c Meet

動画配信だけでなく、「挙手機能」及び「チャット機能」を活用した。

d ロイロノート

拡大機能や書き込み機能が簡単に行えるため、教科書をスキャンしてスライドを作り、資料として提示できるようにした。

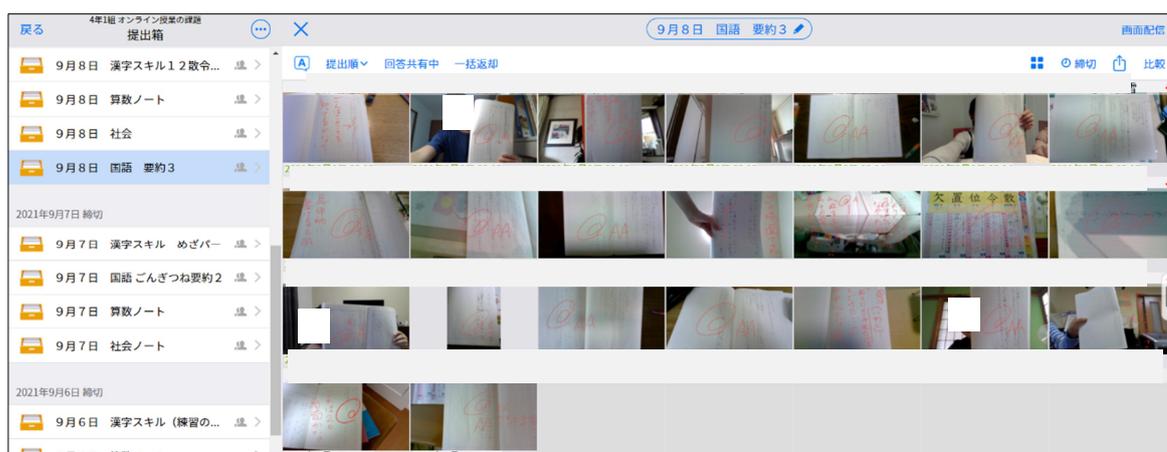
⑥ $4\frac{3}{10} = \frac{43}{10}$
AAA

分子が同じ分数では、分母が大きいほど小さい分数になる！！

【ロイロノートでのスライド活用例】

e ロイロノート（提出箱）

オンラインを利用した学習で使った手書きのノートや、課題などを提出した。



【オンラインを利用した学習での課題提出】

ウ 成功のコツ～チーム学校として～

a 負担軽減

オンライン授業をクラスごとではなく学年全体で行った。国語は1組担任、算数は2組担任…など、午前中の4コマを学年のスタッフ4人で分担することにより、クラス間での学習内容に差が出ないようにするとともに、授業や教材研究の負担を減らすことができた。また、「授業をする教師」「教材研究をする教師」「学校預かりの児童へ指導する教師」など、ローテーションを組んだ。



【学校預かりの児童の様子】

b 模擬授業の実施

初めてのオンライン授業となるため、事前に全教師へ情報担当が模擬授業をした。児童は端末の前に座ったままが多くなるため、動きのある活動を取り入れた授業を提案した。

<オンライン授業での児童の活動例・留意点>

【1】レスポンスをさせる

- ・作業指示や音読の指示の後、作業が終わったり確認ができたりしたら動きを伴う反応をさせる
 - ・立つ ・座る ・手をふる ・挙手をする ・○×のジェスチャーをする
 - ・教科書の該当箇所を指さす ・書いたノートをカメラに向ける
 - ・口頭で「できました」と言う ・Meetの挙手ボタンを押す
 - ・指文字で答える ・チャットに文字を入力する（1、2文字程度の簡単な文字）

【2】見られていることを意識させる

- ・【1】のことができていない児童を、できるだけ多く名前を出してほめる
- ・一度に数人を指名する（○○さん○○さん○○さん、同時に言ってごらん、など）
- ・たびたび、教師がカメラを注視することで「目が合っている」感じをもたせる

(端末の画面を見がちだが、そうすると児童と目が合わない)

- ・教師側の画面に映っている列ごとに順番に指名していくことを伝える

【3】授業のリズムとテンポを意識する

- ・長文を書く、多くの問題を一度に解くなど、時間差の起こりやすい活動を極力排除する。「Aができた人はBをして待つ」など、最後の1人を待たなければならないような局面を減らす工夫をする。
- ・問題演習などは、自習時間を作り、取り組ませる。課題を提出させ、一人一人の添削をすることで個別支援を行う。「質問タイム」などを設けて、質問がある人のみ Meet に入り、教師と1対1で話して疑問を解消できるようにする時間を確保する。

c マニュアルの作成

端末を自宅に持ち帰る際のルールや、Classroom への入室手順、Meet の利用手順、その際の注意点などをまとめたマニュアルを作成し、全児童へ配付した。(付録参照)

d 他の授業への転用

学校と自宅間だけではなく、密を避けるための教室、特別教室間、異なる学校間など、様々なところで活用ができる。また、感染症対策で出席停止の児童に、学校の授業を配信するといった活用もできる。

エ 成果と課題

a 成果

- ・臨時休校期間であっても、国語、算数、理科、社会、音楽、保健・体育、道徳、外国語の学習を毎日進めることができた。
- ・オンラインを利用した学習の実施により、児童の操作技能も飛躍的に伸び、ロイロノートへの課題提出などもスムーズに行うことができるようになった。
- ・電子黒板をアナログな形で提示したが、児童の画面からも比較的に見やすく、画面切り替えの手間もなかったため、授業のリズムとテンポを確保しやすかった。

b 課題

- ・家庭の回線の状況により、画像が荒れる、遅延が起こるなどの問題があった。兄弟が別々のオンライン授業を受けていた際には、保護者に連絡して Wi-Fi の回線を端末ごとに変更することにより、通信状況に改善がみられることもあった。
- ・端末を近距離で長時間注視することで、気分不快や頭痛を訴える児童もいた。端末との距離をとる、休憩時にはしっかりと目を休ませる、部屋を明るくすることなどを繰り返し呼びかけた。
- ・家庭の都合や回線の問題、バッテリー残量など、様々な問題で常に全員がオンラインを継続できるわけではなかった。そのため、以下の対策をとった。

- ①参加できない児童には電話連絡をして課題を伝える。
- ②オンライン授業に参加できなくても学習内容を補完できるような補助プリントをあらかじめ用意する。
- ③オンライン授業でも十分対応できる単元を選び実施する。
- ④オンライン授業で実施した内容は、学校再開時に振り返る時間をもつ